6面からつづく

素の愛用者であることが紹介された。2年近く飲まれていて、腸の調子が良いそうだ。東日本大震災時の由井大会長の活動DVDと共に、彼のヒット作「Tears in Heaven」が流され、日本人の食と健康の問題に、総合的に取り組む由井大会長と豊受自然農に、大きな拍手が贈られた。

パネルディスカッションは、由井寅子（大会長日本豊受自然農代表・農民）、小名木善行（日本の心を伝える会代表、国史研究会代表）、成瀬一夫（元氣農業開発機構幹事長）、小谷宗司（薬剤師 自然科学研究所理事長）の4氏。

小名木善行氏は、素晴らしい会にお招きいただき感謝します。とても充実した内容でした。ホメオパシー療法のDVDを拝見して感動しました。子供がどんどん良くなって、髪の毛も生えて動けるようになって。ワンちゃんもすごいです。幕末の頃、フランス大使のレオン・ロッシュが来日しました。この方は、大変な腰痛持ちでした。浅田宗伯という漢方医が、ロッシュを診察して薬を調合したところ、腰痛がまたたく間に治ったそうです。ロッシュがフランスに帰国後、ナポレオンから浅田宗伯に感謝状が贈られたとか。後に、浅田宗伯の処方を基に浅田飴が作られました。「漢方」は、比較的新しい言葉です。それまでは単に「医術」と呼んでいました。江戸時代に蘭方医学が入ってきた時、それに対抗して「漢方」という言葉ができました。漢方とは、中国・日本・インドなどの医術を総合したものを指しています。明治時代に入ってから「漢方」は「東洋医学」という言葉に変わりました。現代中国の東洋医学は、日本から逆輸入したものです。

小谷宗司氏は、今日、1時間ほど講演しましたが、少し補足します。PIC／Sで、生薬に薬理学的根拠が求められているということも課題です。東洋医学の生薬や日本の伝承薬の効果は、PIC／Sの基準で説明するのが難しい点があります。西洋薬は単一成分が主ですが、生薬や伝承薬は、自然のものなので多成分系です。一つの植物に2000種類以上の成分が入っています。これらの成分を単離し、それぞれ動物実験にかけて薬理的な根拠を求めるのは大変難しいのです。この2日間を通して、自然の大切さ、生体に負担をかけない療法や食事などをたくさん知ることができました。私は、当面の課題であるPIC／Sと折り合いをつけながら、生薬の普及・栽培に尽力していきたい。

成瀬一夫氏は、今回初めて、日本豊受自然農さんと協賛してシンポジウムを開催させていただきました。私たち元氣農業開発機構は、農林水産省主催のアグリビジネス創出フェアに参加して、各企業に様々なアピールをしています。日本豊受自然農さんにも是非、フェアに出展していただき、多くの方々に活動を知ってもらいたいと思います。また、いろいろなイベントでも、日本豊受自然農を全面的に応援し、記者クラブをはじめとしたプレスにもアピールしていきたいと思っています。日本豊受自然農は、日本にとって、重要な活動をしています。そして、ホメオパシー時代も近い将来くると確信しております。

最後に由井会長による総評が行われた。

皆さんの応援をいただき、このように運営できることに感謝です。皆さんのおかげで、私達が本当の意味で自然に生きること、食、体、心、魂、霊性の活動を支えていくことができます。目に見えないものがとても大事な時期にきています。ホメオパシーのレメディもそうです。25年間ホメオパシーをやってきて、物質がなくてもエネルギーのパターンを自己治癒力は受け取って、健康を取り戻せるということ。そして、人間だけではなく、動物や植物にも同じように効果があることだと気づきました。しかし、目に見えないものは、なかなか信じてもらえません。パッシングされましたが、私は全然、腹を立てていません。それどころか、大きな苦しみをいただいて、私も社員も乗り越えて強くなりました。もし、この放送をご覧になっていたら、私の愛を受け取っていただきたいと思います。

シンポジウムの総評の後に、由井大会長からゲストの方々にお礼を込めた以下のメッセージが伝えられた。

「小谷先生が仰った、漢方や和方で使われている薬草は、どんどん使っていくべきと思います。

「小名木先生は、お互いに縁あって知ることができました。考え方が似ているのです。小名木先生の著書は、何度も頷きながら読みました。この方に今回講演していただきたいと思いました。小名木先生の素晴らしい点は、誰をも肯定していることです」。

「成瀬さんと、元氣農業開発機構さんには、バッシングの最中に、他のメディアが取り上げてくれない中で、私たちの活動をずっと書き続けてくれました。成瀬さんのそのような男気に惚れました。ぜひ恩返ししたいと思っています」。

最後にNPO法人元氣農業開発機構の坂本幸資副理事長が次のように挨拶を行った。

「2日間、長時間に渡りありがとうございます。このような取り組みが、私たちの活動の励みになります。感謝します。成瀬幹事長から、アグリビジネス創出フェアに出展しないかという話がありましたが、農林水産省の官僚との集いなどにもお招きしたいと思います。このような農業の取り組みに興味を持っている女性官僚もたくさんいます。バイオマス・ニッポン総合戦略などもあります。「和を以て尊しとなす」の精神で、有能な方々と一緒に活動していければ幸いです。皆さんのより一層のご健勝とご活躍をお祈りしています」。

最後に坂本氏が音頭を取って、会場全体で三本締めを行い、さめやらぬ熱気と好評の中、シンポジウムは幕を閉じた。

主催したNPO法人元氣農業開発機構の坂本副理事長と日本豊受自然農の由井寅子代表が三本締めで閉めた

第1回「食品産業もったいない大賞」表彰式

農林水産大臣賞は山梨罐詰㈱

局長賞を5社が受賞

第1回「食品産業もったいない大賞」の表彰式が3月26日、東京・内幸町のイイノホールにおいて行われた。これはバイオマス資源総合利用推進協議会が食品産業の持続可能な発展に向け、地球温暖化・省エネルギー対策である「熱の有効利用」、「運送システムの効率化」、「食品ロスの削減」、「事業者間による連携」、「消費者と連携した取組」等、顕著な実績を挙げている企業、団体及び個人を表彰するもので、今年度初めて実施、農林水産省が後援している。

表彰された方は次の通り。

【農林水産大臣賞】

▽山梨罐詰㈱（静岡県静岡市）＝缶詰工場のシロップ排液を利用したメタン発酵システムの確立

【食料産業局長賞】

▽生活協同組合コープさっぽろ＝（北海道札幌市西区）＝循環型社会を目指した取り組みバイオガスプラント

▽セカンドハーベスト・ジャパン（東京都台東区）＝もったいないを、ありがとう（フードバンク活動）

▽ケンコーマヨネーズ㈱（東京都杉並区）＝ポテトピールの液状飼料化で高度なゼロエミッションを実現

▽朝日酒造㈱（新潟県長岡市）＝燃料・資材・設備にかかるエネルギーがもったいない！清酒製造工場の環境活動

▽㈱みすずコーポレーション（長野県長野市）＝豆腐端材の再商品化

【食品産業もったいない大賞審査委員会委員長賞】

▽いわて生活協同組合（岩手県滝沢市）

▽大都技研㈱（栃木県栃木市）

▽パルシステム生活協同組合事業連合会

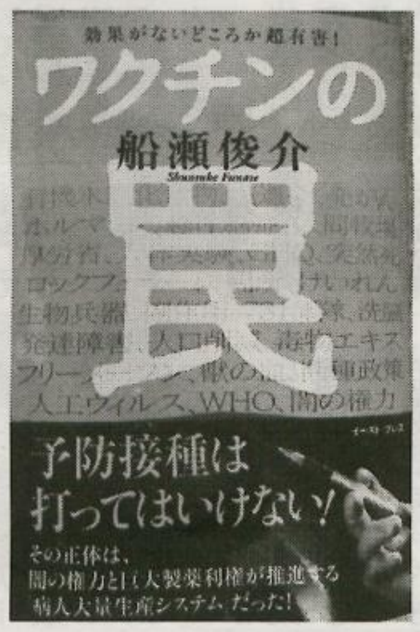
▽湘南AO㈱（神奈川県鎌倉市）

▽特定非営利活動法人フードバンク山梨（山梨県南アルプス市）

▽日豊食品工業㈱城南工場（熊本県熊本市）

一読して欲しい本

船瀬俊介氏の新刊



ワクチンの罠
船瀬俊介著
イースト・プレス

定価＝1500円＋税

女の子のいる親には、是非一読してほしい本である。あまりに国と製薬会社と医療業界は無責任で怒りを感じる。子宮頸がんのワクチン接種での副作用発生率は、他のワクチンと比較すると断トツに高い。それに子宮頸がんワクチンを接種しても無効であるうえ、かえって子宮頸がん発生リスクを44・6%も増加させる「発がんワクチン」だという。ハイリスクワクチンに5万円をも払って接種する前に、この本を読んで可愛い娘の健康と運命を守って欲しいと思う。船瀬俊介氏のベストセラー「買ってはいけない」に次ぐ読みごたえのある本だ。

自然農法学び卒業

農業・環境・健康大学校

卒業生、全員進路決まる

陽（みなみ）校長、営農技術科5名、基礎技術科7名の卒業生を祝う

公益財団法人農業・環境・健康大学校＝陽 捷行校長・静岡県伊豆の国市浮橋1606-2＝は3月9日、平成25年度の卒業式を同校で行われた。今年度は営農技術科5名（2年間）、基礎技術科7名（1年間）の学生が無事に卒業した。進路も就農3名、就職3名、進学6名と決まった。

環境・農業・健康大学校で学ぶ持続的な農業『自然農法』とは、岡田茂吉（1882～1955）が昭和10年に提唱し、その栽培過程において化学肥料や農薬に依存しないで、土が本来持っている力を十分に発揮させる農業のことを言う。

陽校長は「卒業式の後、生徒と別れがたく・・」と卒業を祝ったようだ。